

公益財団法人骨粗鬆症財団  
アムジェン株式会社

## 新型コロナウイルス感染症流行下での骨粗鬆症に関する意識・実態調査

### 参考資料

2020年12月22日

#### 調査概要

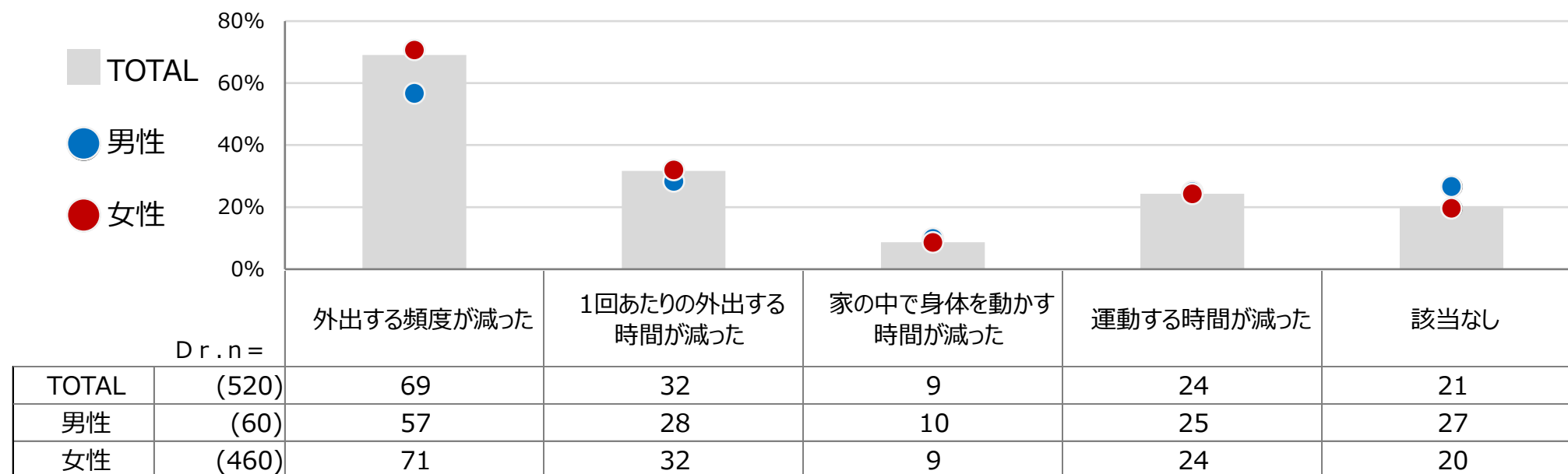
調査対象：①50歳以上の一般男女 計3154名  
女性50代526名、60代521名、70代538名  
男性50代515名、60代529名、70代525名  
②骨粗鬆症治療中の男女 計520名  
女性460名、男性60名  
調査方法：WEBでのアンケート調査  
地 域：全国  
実査期間：2020年9月14日～18日

# 【骨粗鬆症治療中の男女】

# 1. 新型コロナウイルス感染症流行後、生活の変化

骨粗鬆症治療中患者さんで、新型コロナウイルス感染症流行後、それまでと比べて外出する頻度が減った割合は7割だった。

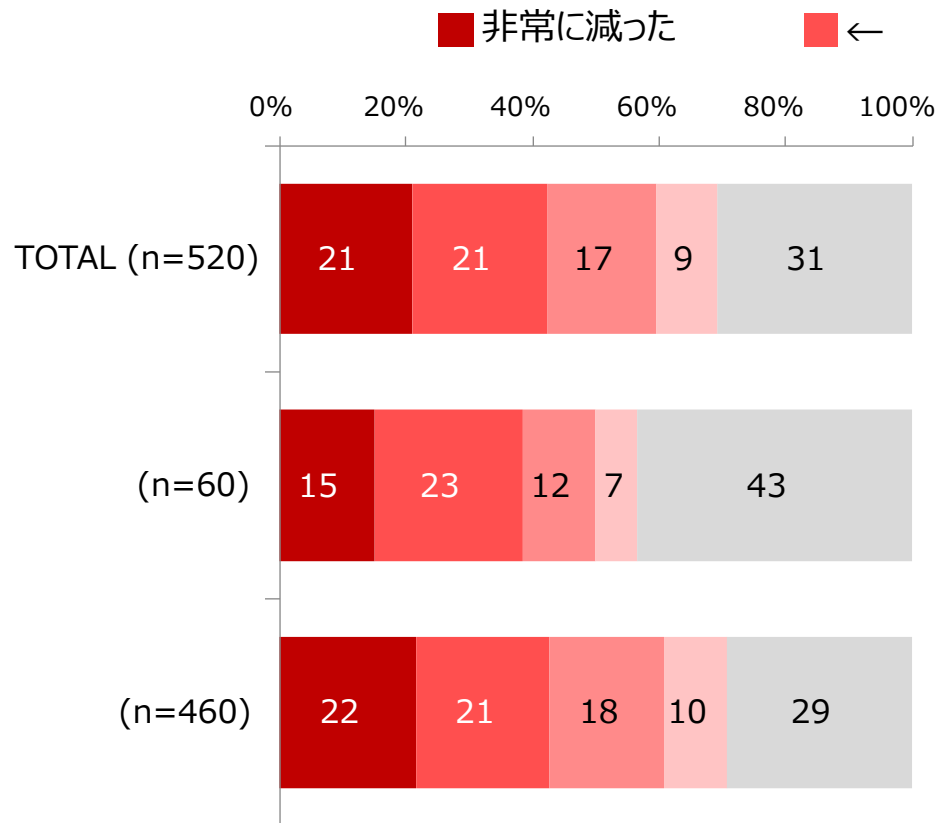
Q. 新型コロナウイルス感染症流行後（2020年2月以降）のあなたの生活は、流行前（2020年1月ごろまで）と比べて変化しましたか。当てはまるものをすべてお知らせください。



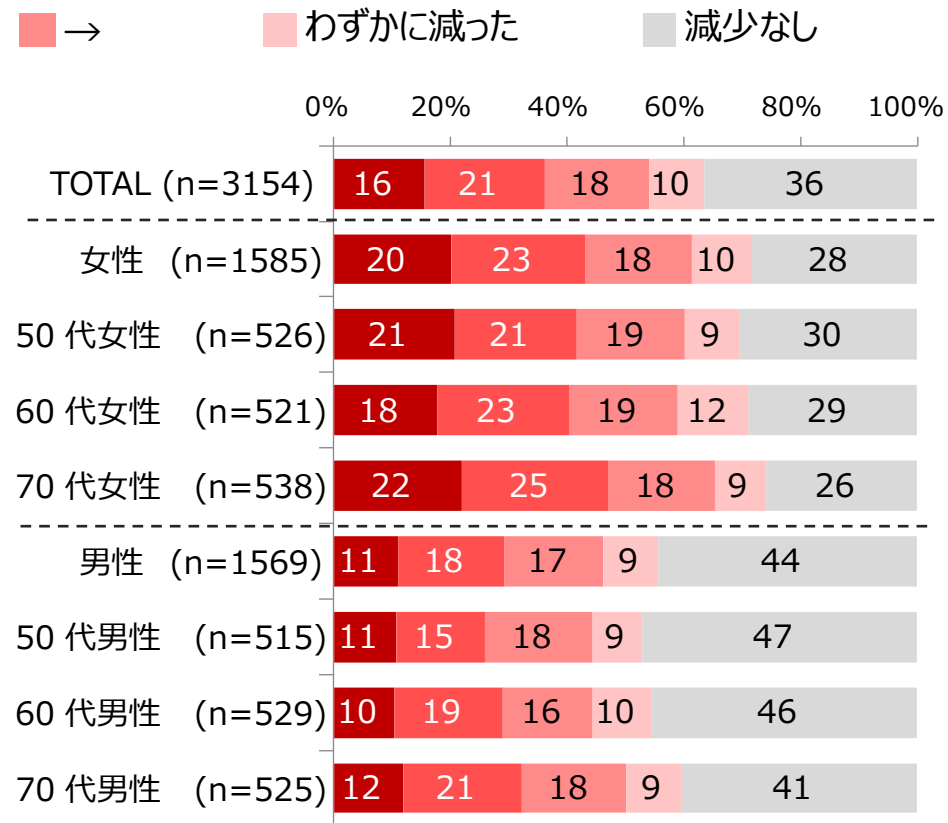
## 2. 新型コロナウイルス感染症流行後の外出頻度の変化

骨粗鬆症治療中患者さんの外出頻度減少の程度については、減少レベルを5段階に分けた場合に最大の5、4レベルで減少している人が4割を占めた。

Q. 新型コロナウイルス感染症流行後（2020年2月以降）、（外出の頻度は）どの程度減ったでしょうか。あなたのお気持ちに最も近いものをひとつお知らせください。



骨粗鬆症治療中患者

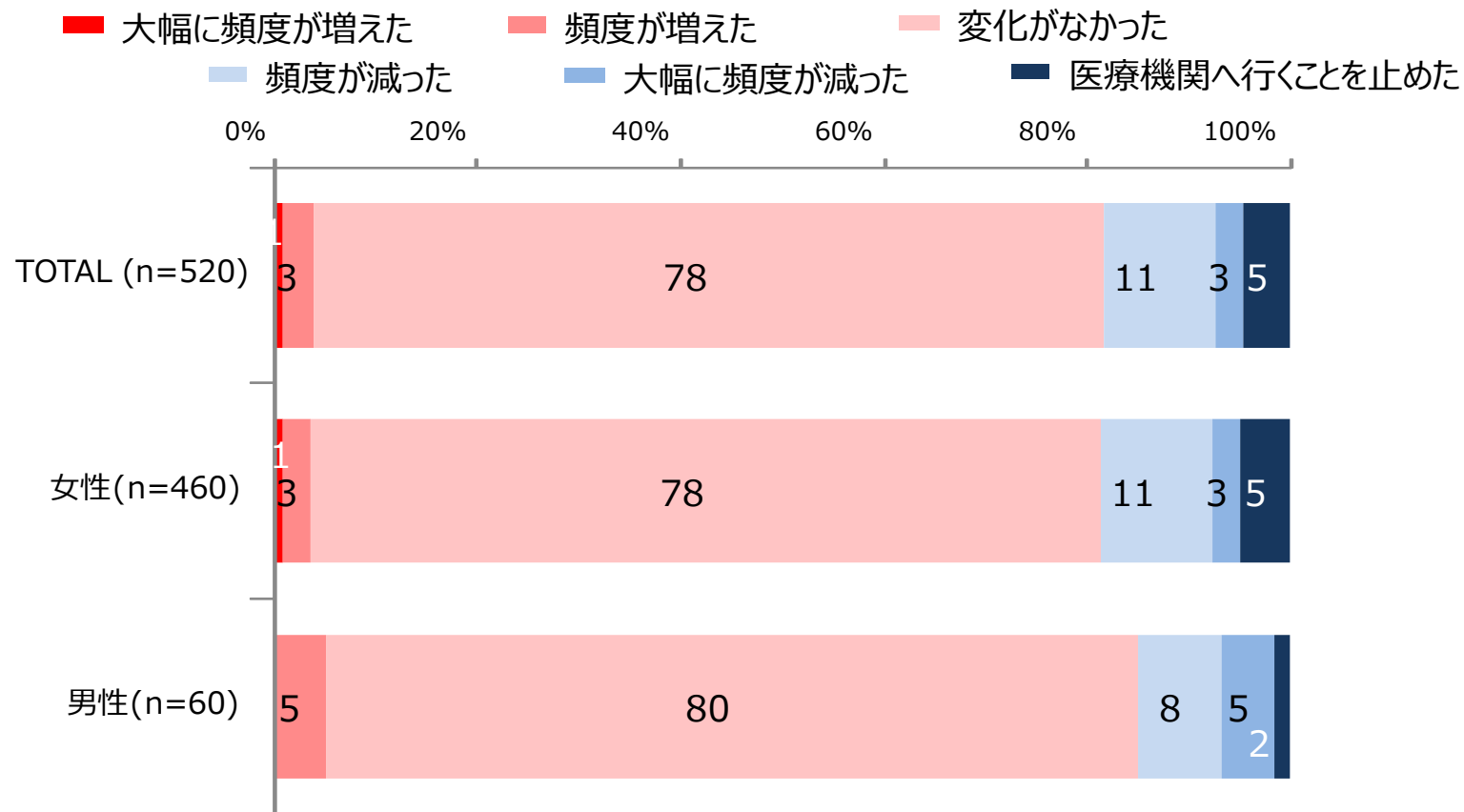


50代以上一般

### 3. 新型コロナウイルス感染症流行前後、通院頻度の変化

骨粗鬆症治療中患者さんで、新型コロナウイルス感染症流行前と比べ、骨粗鬆症治療のための通院頻度が減った割合は2割だった。

Q. 新型コロナウイルス感染症流行前（2020年1月ごろまで）に骨粗鬆症治療のために医療機関へ行った頻度をお知らせください。



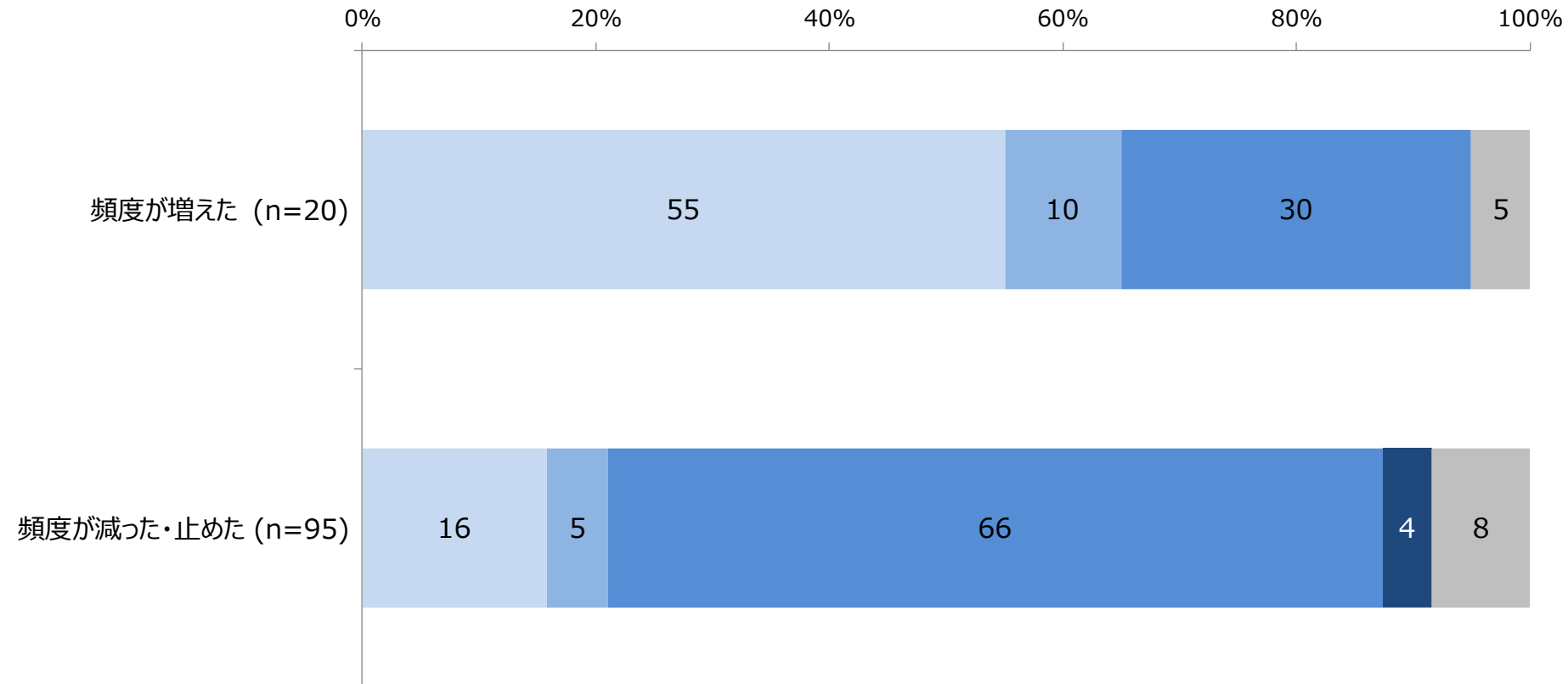
## 4. 新型コロナウイルス感染症流行前後、通院頻度の変化

骨粗鬆症治療中患者

新型コロナウイルス感染症流行前と比べ骨粗鬆症治療のための通院頻度が減った・通院を止めた患者さんの6割強は、ご自身の判断で通院頻度の減少・中止を決めていた。

Q. 新型コロナウイルス感染症流行後（2020年2月以降）骨粗鬆症治療のために医療機関へ行った頻度が変わった理由として、最も当てはまるものをひとつお知らせください。

■ 医師から指示・案内があった   ■ (医師以外) 医療機関から指示・案内があった   ■ 自身の判断で決めた   ■ 家族の判断で決めた   ■ 特に理由はない

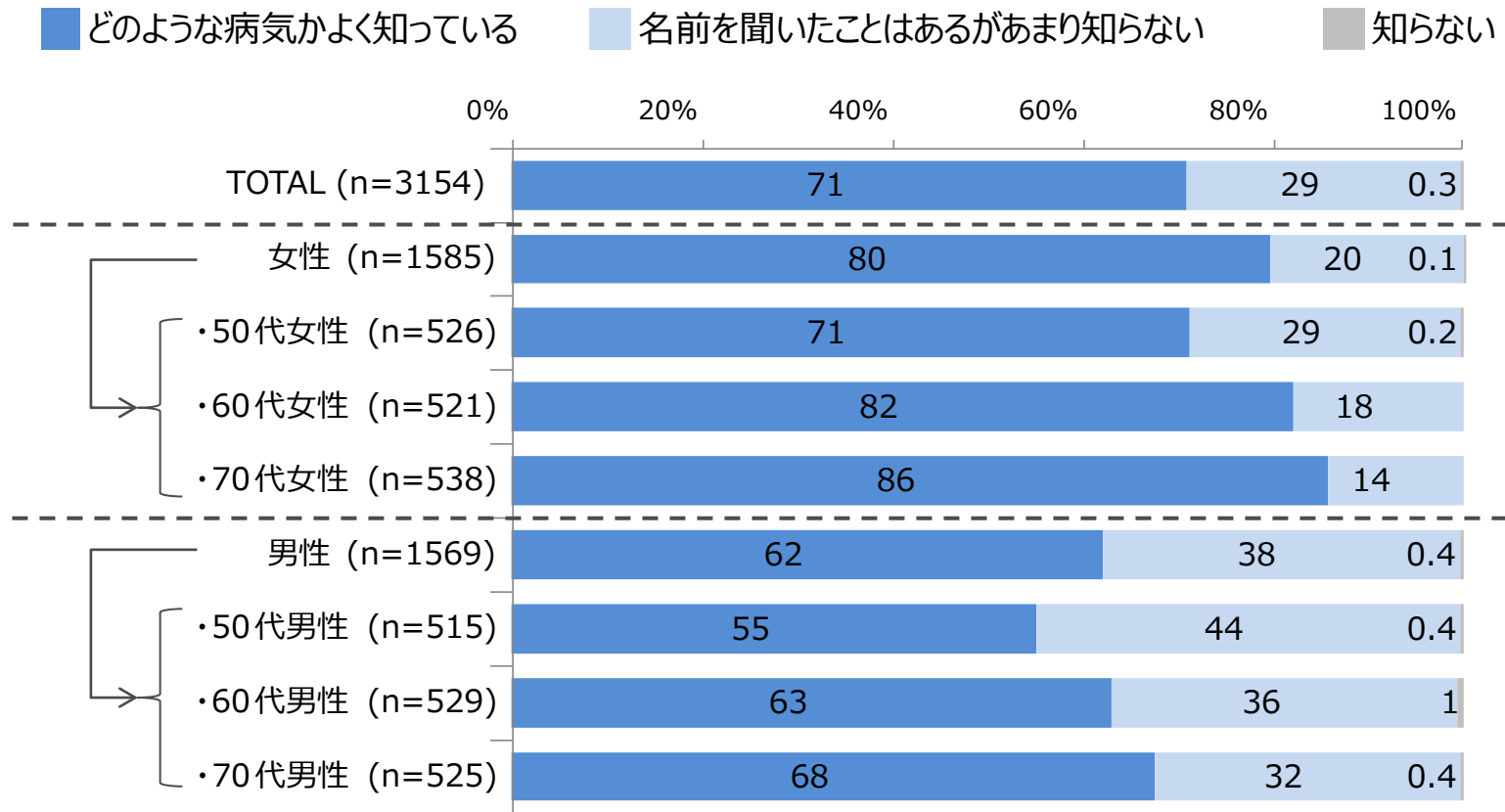


**【50代以上男女一般生活者】**

## 5. 骨粗鬆症認知状況

一般生活者で骨粗鬆症を、「よく知っている」割合は女性で8割、男性で6割であった。女性・男性ともに年代別の「よく知っている」割合は50代が最も低かった。

Q. あなたは、「骨粗鬆症」という病気を知っていますか。

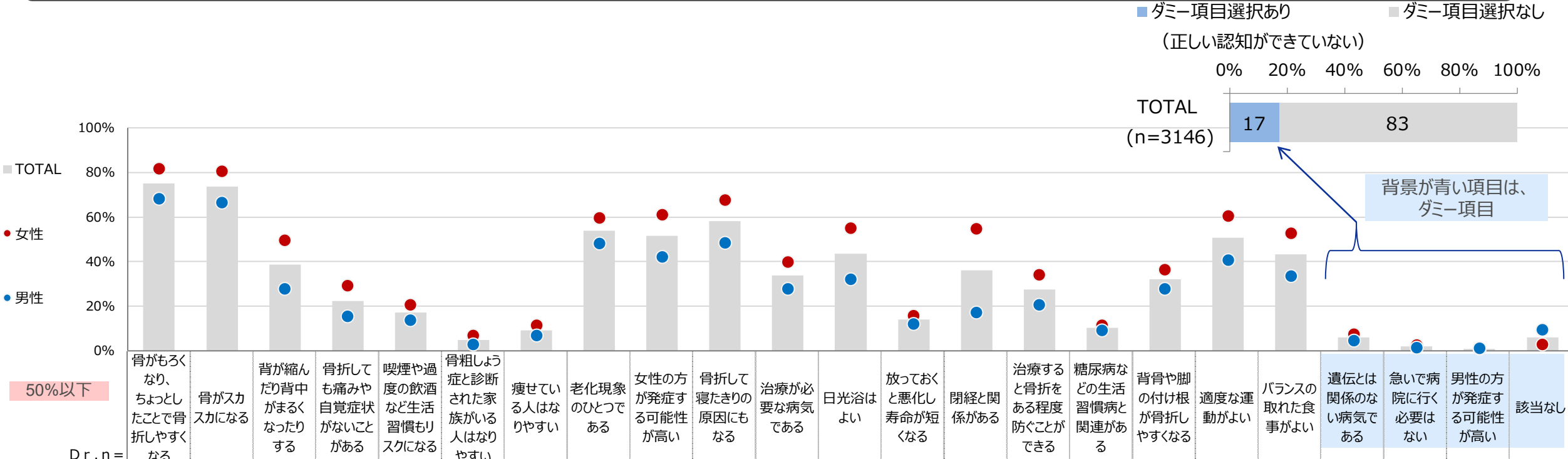




# 6. 骨粗鬆症認知症状・情報

一般生活者で、誤った項目を選択した（正しい認知ができていない）割合は2割弱であった。また、正しい項目であっても今回聴取した19項目のうち、13項目が半数以下にしか認知されていなかった。全世代の女性の5割以上が骨粗鬆症は老化現象のひとつであるとしか認識していないことが分かった。

Q. 以下のうち、「骨粗鬆症」の具体的な症状や情報として、ご存知のものをすべてお知らせください。

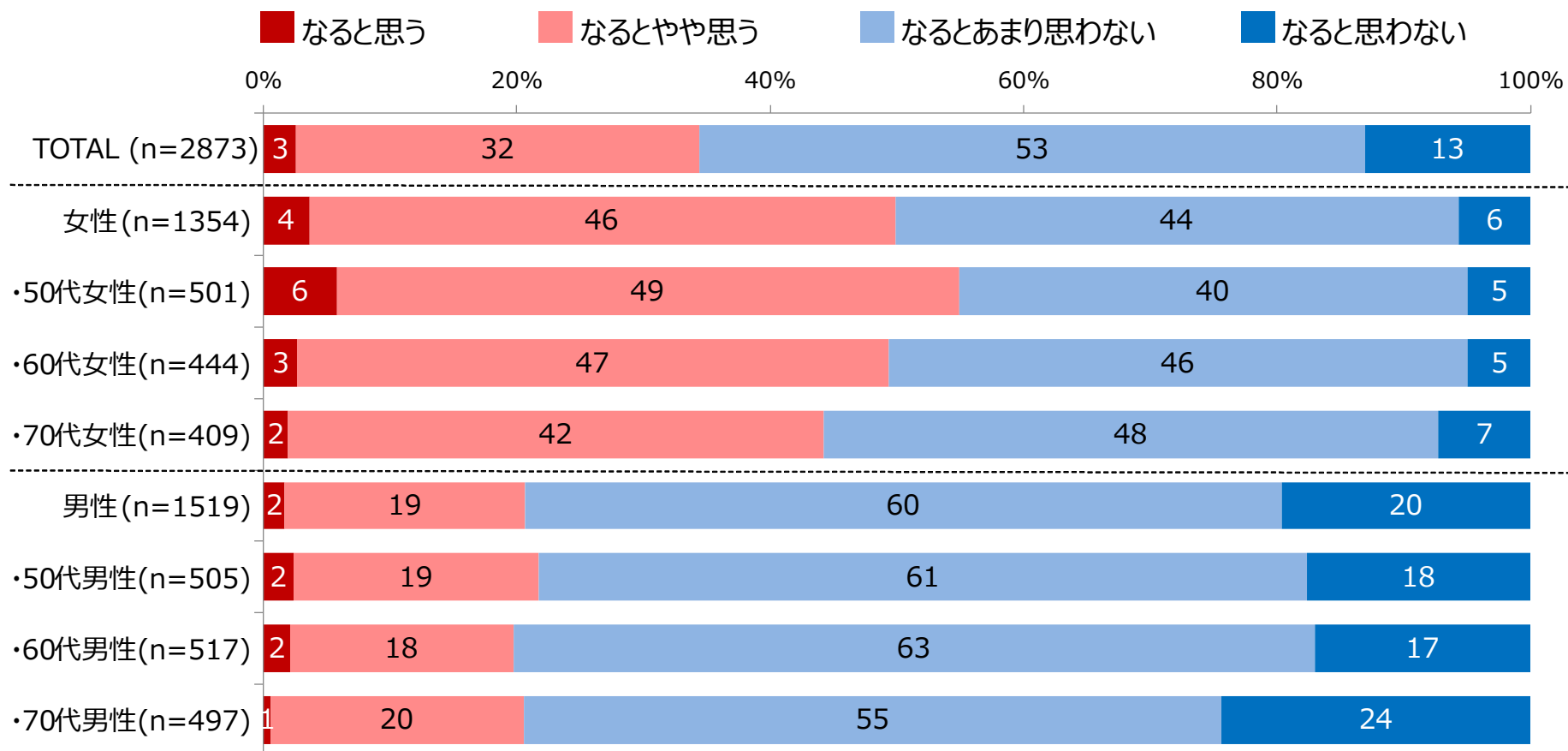


	Dr.n =	骨がもろくなり、ちょっとしたことで骨折しやすくなる	骨がスカスカになる	背が縮んだり背中がまるくなったりする	骨折しても痛みや自覚症状がないことがある	喫煙や過度の飲酒など生活習慣もリスクになる	骨粗しょう症と診断された家族がいる人はなりやすい	痩せている人はなりやすい	老化現象のひとつである	女性の方が発症する可能性が高い	骨折して寝たきりの原因にもなる	治療が必要な病気である	日光浴はよい	放っておくと悪化し寿命が短くなる	閉経と関係がある	治療すると骨折をある程度防ぐことができる	糖尿病などの生活習慣病と関連がある	背骨や脚の付け根が骨折しやすくなる	適度な運動がよい	バランスの取れた食事がよい	遺伝とは関係のない病気である	急いで病院に行く必要はない	男性の方が発症する可能性が高い	該当なし
TOTAL	(3,146)	75	74	39	22	17	5	9	54	52	58	34	44	14	36	27	10	32	51	43	6	2	1	6
女性	(1,584)	82	80	50	29	21	7	11	59	61	68	40	55	16	55	34	11	36	60	53	7	3	1	3
・50代女性	(525)	78	81	44	25	19	6	10	55	61	63	33	48	15	54	26	9	32	54	46	7	3	1	4
・60代女性	(521)	84	81	53	30	22	8	12	61	65	69	42	58	17	58	35	12	36	62	55	9	2	1	2
・70代女性	(538)	83	80	52	33	20	7	13	62	57	71	44	59	15	51	42	13	41	65	57	6	2	1	3
男性	(1,562)	68	67	28	16	14	3	7	48	42	49	28	32	12	17	21	9	28	41	33	5	1	1	9
・50代男性	(513)	62	61	22	12	13	3	7	46	33	40	22	27	9	16	13	7	22	33	27	3	1	1	12
・60代男性	(526)	68	69	28	17	13	3	6	48	46	50	28	30	14	17	23	9	29	38	33	6	2	1	8
・70代男性	(523)	75	69	33	18	14	3	9	50	47	56	32	40	13	19	25	11	32	52	41	4	2	1	8

## 7. 骨粗鬆症になると思う程度

一般生活者で、骨粗鬆症になると思う・ややなると思う割合は女性で5割程度、男性では2割程度であった。前項（6. 骨粗鬆症認知症状・情報）で、60歳代および70歳代の女性で、各々35%、51%が「背が縮んだ」と自覚がありながら、各々51%、および55%が骨粗鬆症になると「あまり思っていない」か「思っていない」という結果であった。

Q. あなたは、ご自身が「骨粗鬆症」になると思いますか。

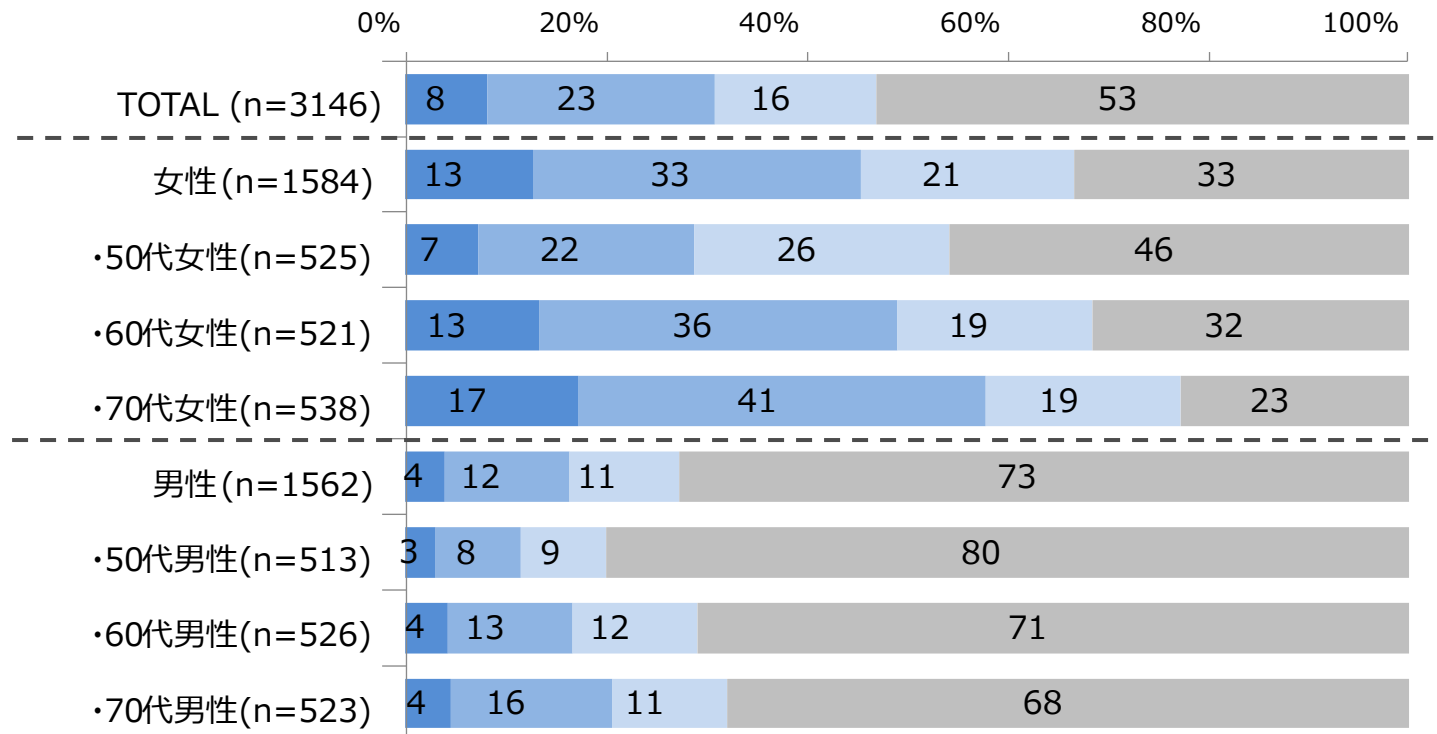


## 8. 骨密度検査実施の経験

一般生活者で、女性では3割、男性では7割が、これまでに骨密度検査を受けたことがないとの回答だった。

Q. あなたは、骨の量（骨密度）を測る検査を受けたことがありますか。

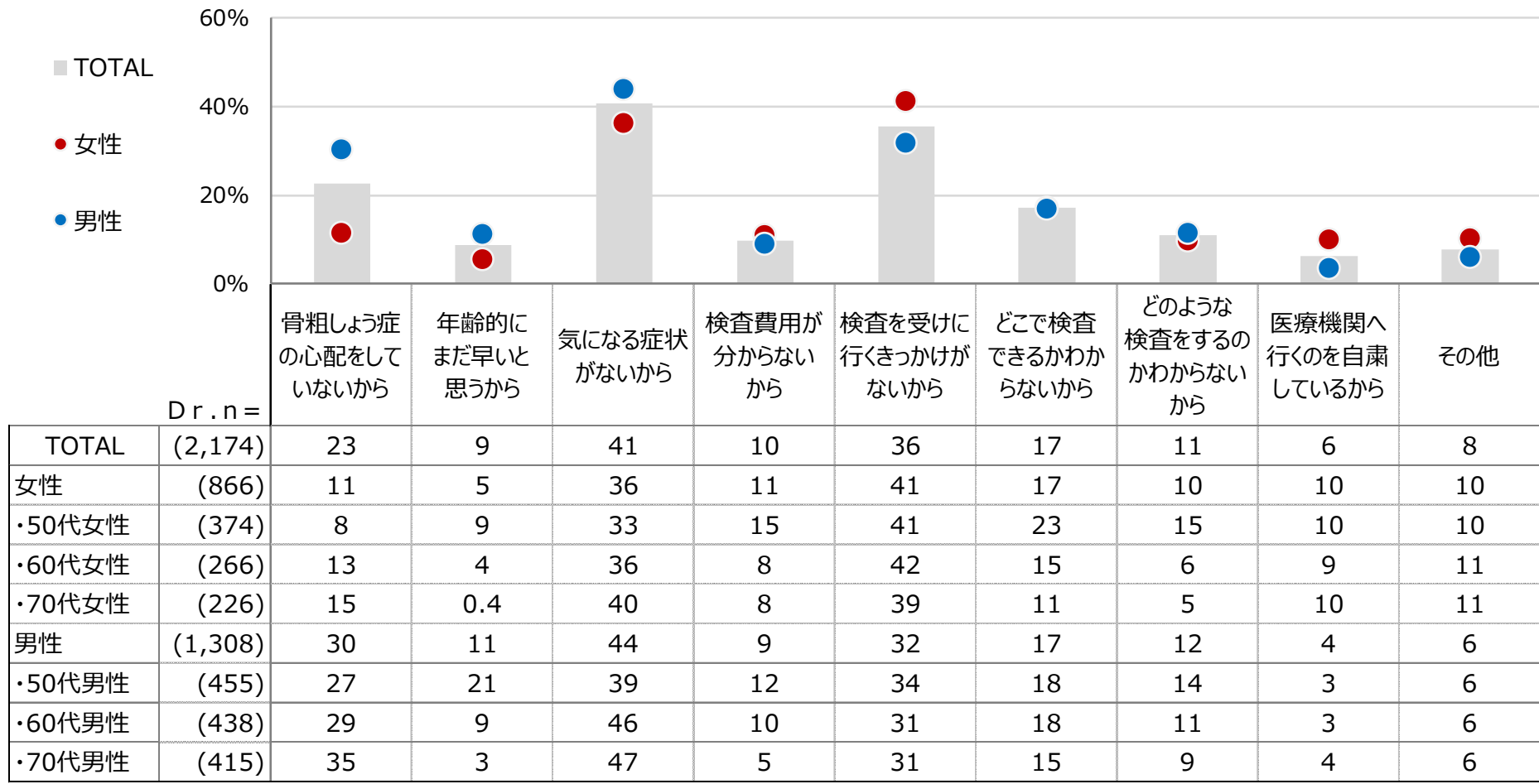
■ 定期的に受けている ■ 定期的ではないが何度か受けたことがある ■ 一度だけ受けたことがある ■ 受けたことがない



## 9. 骨密度検査を受けたことが1度だけ／受けたことがない理由

一般生活者で検査を受けたのが一度だけ、もしくは検査を受けたことがない理由として、女性は「検査を受けに行くきっかけがない」、男性は「気になる症状がない」が最も多かった。

Q. 骨の量（骨密度）を測る検査を受けたのは一度のみである／受けたことがない理由として、当てはまるものをすべてお知らせください。



# 10. 骨粗鬆症関連の症状で自身に当てはまる項目

一般生活者で骨粗鬆症に関連する症状を感じている割合は女性で6割、男性で5割であった。女性は上の年代ほど症状を感じている割合が高く、50代が5割に対し、60代では6割、70代では7割程度であった。女性では「背が縮んだ」と「腰痛」、男性では「腰痛」が多く選ばれた。自覚症状がありながらも骨粗鬆症になると思っていないと答えた女性がいることを反映している。

Q. 以下のうち、ご自身に当てはまるものをすべてお知らせください。

